

## R3 第 2 回 松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会 次第

令和 4 年 3 月 23 日 (水)

午前 10 : 00 ~ 11 : 00

松川町役場 2F 協議会室

講演会 11 : 00 ~ 12 : 00 ・大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 令和 3 年度 事業報告

(2) 令和 4 年度 事業計画 (案) について

(3) 農地の引き渡しができる法人立ち上げについて  
検討委員会の組織案について

4 講演会 「有機農業と学校給食」～コロナの中で注目！～  
長野県有機農業推進プラットフォーム担当 吉田太郎氏

5 閉 会

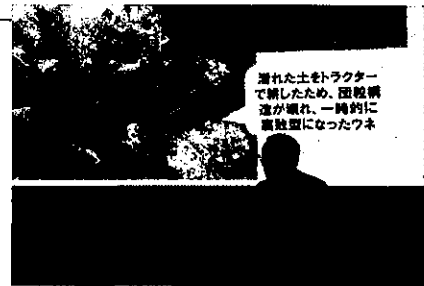
	役職	氏名
1	松川町長	宮下智博
2	農業委員会会長	松下敏章
3	会長代理	北林秀昭
4	ゆうき給食とどけ隊会長	久保田純治郎
5	ゆうき給食とどけ隊副会長	牛久保二三男
6	長野県南信州農業農村支援センター	木下倫信
7	JA営農課長	坂巻 勲
8	直売所代表 もなりん	松沢健史
9	松川町教育長	小平順一
10	学校栄養士 中央小	木下めぐ美
11	学校栄養士 中学校	片桐美咲
12	学校栄養士 北小	本多有里子
13	町栄養士 保健福祉課	浜岡翔子
14	町栄養士 保健福祉課	今井奈穂美
15	保育園 こども課（保育園）	遠野美幸
16	松川町商工会代表	小沢文人
アドバイザー	長野県有機農業推進プラットフォーム担当	吉田太郎
事務局	産業観光課長	田中 学
	農業振興係長	宮島公香
	農業振興係	小沢香織
	農林係長	米山 敏
	農林係	宮澤風香

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	健康な食が健康な体を育む。～環境保全型農業の推進～
事業主体 (連絡先)	松川町 松川町役場産業観光課 (農業委員会事務局)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	978,647 円 (うち支援金: 782,000 円)

事業内容

- ① 遊休農地対策として、農地を持たない方の農業への関心・取組を促すため、野菜づくり指南番組 (D o遊農) を制作し、ケーブルテレビで毎月放映した。また、菌ちゃん先生こと吉田俊道氏の講演会及び圃場での体験会、オオタヴィン監督の映画「いただきます。～ここは発酵の楽園～」等の上映会を6月5日・11月1日に開催し、食の安全・健康な土壌づくりについて学びました。
- ② 環境保全型農業を目指し、自然農法研究センターの講師の皆さんに、有機栽培、自然農法についてのノウハウを実証圃場にて学びました。
- ③ 学校給食及び、病院への有機食材の提供を実施。



【菌ちゃん先生こと吉田俊道氏講演

【目標・ねらい】

- ① 啓発活動により、農業に触れてない皆さんにも関心を持ってもらう (講演会・野菜づくり番組)
- ② 環境保全型農業の推進として、実証圃場での研修会で土壌づくり、知力向上のノウハウを学ぶ。
- ③ 子どもたちへの食育として、学校給食への提供、菌ちゃん農法体験等を実施した。

事業効果

- ① ケーブルテレビでの放送。9回。問い合わせ等も増えた。ふれあいガーデンについては、現在、全区画が埋まっており野菜づくり愛好家を楽しみながら耕作している。講演会 (体験会)、上映会には6月5日は85名、11月1日は62名の参加があり菌ちゃん先生、オオタ監督のトークを楽しみながら菌による土づくり、有機農業により未来の環境を守っていかねばならない事を学んだ。
- ② 実証圃場は主要5品目のほか、少量多品目により有機農業を実施する農家の加入、また、ノウフク連携で農業を実施する事業者が土作りから学ぶ機会ができた。全10回の研修会の中で、町内外から多くの参加があった。2年目の研修会となり、継続して実施してきた圃場での終了アップ、また生物多様性により、収穫までこぎつけた事例もあった。
- ③ 学校給食へは栽培できたものを随時提供した。主要5品目では、平成30年度使用量の28%、5.2t分の有機食材の提供を行った。それ以外にも、だいこん、白菜、カブ、スイートコーンなど1.1tを提供した。

※自己評価【B】

【理由】

コロナ禍であったが、予定していた効果が得られた。

今後の取り組み

本事業は、今年度で終了となりますが、引き続き自然に優しい農法や循環型農業について啓発していくとともに、実証圃場での研修会で培ったノウハウを広め、学校給食や病院、福祉施設への食材の提供も継続して参ります。

遊休農地対策として開始した当事業ですが、8月の有機農業研究者会議2021での実証圃場見学先に選定いただいたり、サステナアワード2021へ取り組みを紹介する動画を投稿したところ、優秀賞 (審査員特別賞) をいただくなど環境保全型農業、また持続可能な農業の推進への取組についての先進事例として全国各地から認識していただき、視察の受け入れなども実施しています。元気づくり支援金南信州地域の令和2年度優良事例の地域振興局長にも選定いただき、今後の活動の励みとなるような賞をいただきました。

町の総合計画では、SDGsに取り組み、持続可能な地域を構築していこうと考えています。環境にやさしく、安心安全な食べ物の地産地消を行うことでの経済の地域内循環を構築し、その先に地域のブランド化を目指し、持続可能な農業の推進につなげられるよう今後も取り組みを行います。

# 令和3年の取り組み

★ 令和元、2年の事業に加えて

■ 松川町環境保全型農業の推進

ア 映画上映会「いただきます2 ～ここは発酵の楽園～」

オオタ・ヴィン監督と菌ちゃん先生こと吉田俊道氏 トークショー

親子で菌ちゃん圃場体験会（ふれあいガーデン）草&無煙炭火器による炭で土づくり

イ 野菜づくり指南番組 DO遊農？放送 12月で終了

ウ 野菜、お米の有機栽培研修会の実施（圃場、参加者の増）新規就農者への支援

エ 学校給食への食材提供（実証圃場で栽培されたもの等）

オ 下伊那赤十字病院への食材提供

カ ふるさと納税の返礼品としてお米、野菜の提供

■ 循環型農業の推進

町内の畜産農家のたい肥 紹介 牛、ウサギ、豚 たい肥及び液肥の紹介

果樹加工所から排出される絞りかす等のたい肥化見学

(3年目 長野県発元気づくり支援機事業へ申請)

## R3 野菜、お米の有機栽培研修会の実施

研修会日時	研修内容
① 4/15	ライムギ緑肥のすき込み、田んぼの均衡化、緑肥用燕麦の播種等
② 5/18	田んぼ荒代かき
③ 6/2	緑肥用ソルゴの播種、燕麦のすき込み、各種野菜の様子確認、田の代かき インセクタリアープランツの播種
④ 7/13	米、野菜の生育確認、玉ネギの収穫後、ソルゴ播種、ニンジン太陽熱マルチ じゃがいもの収穫
⑤ 8/3	玉ねぎ圃場、緑肥の漉き込み・トウモロコシ収穫後すき込み、ニンジン播種、 栄養土、調理員の圃場視察実施、育土についての座学、ぼかしづくり講座
⑥ 8/30	水稻、大豆の生育確認
⑦ 9/1	玉ネギの播種確認、野菜の生育確認、ぼかしの確認、 翌年のジャガイモ栽培用たい肥投入予定
⑧ 10/14	玉ネギの育苗確認、町内たい肥施設等の見学、長ネギの生育確認
⑨ 12/17	玉ネギの定植後確認、ニンジン収穫確認
⑩ 3/14	玉ネギの生育確認、田んぼや圃場の確認。 「2021振り返りと、2022栽培のポイント」 「松川町有機水田生産性向上プロジェクト」の2点について座学

※ 有機農業取組面積: R1 3.5ha ⇒ R2 4.6ha ⇒ R3 7.4ha

令和3年度の取り組み



玉ねぎの圃場へは緑肥を蒔き、次の栽培に備えます。

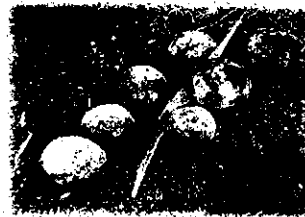


6月 初めての玉ねぎ収穫  
早速、学校給食へ提供



令和3年度の取り組み

新しい田んぼでの取り組み開始  
高低差をなくし、代かきは「深水浅代かき」で  
行う。上はトトロコ、下はごろごろを目指す



緑肥を蒔いて、たい肥にし、  
太陽熱マルチで処理した畑  
で、2年目にして立派なニ  
ンジンできました。毎日、  
給食で食べて貰っています。

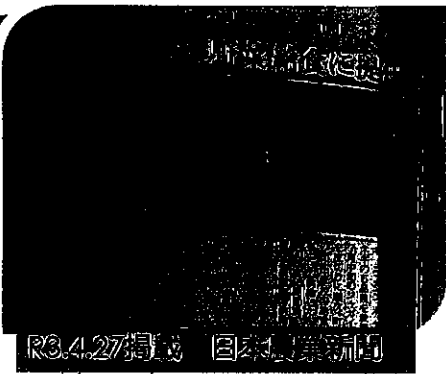
給食には、まあくて大き  
いサイズがが好まれます。  
今年は収量が落ち、次の栽  
培のために、秋にたい肥を  
入れました。



トウモロコシの周辺に枝豆、  
畝間の草も一定の高さで管理  
したところ、カエルが良く来  
て、アワノメイガをよく食べ  
てくれました。



令和3年度の取り組み



R3.4.27掲載 日本農業新聞



R3.9.24掲載 日本農業新聞



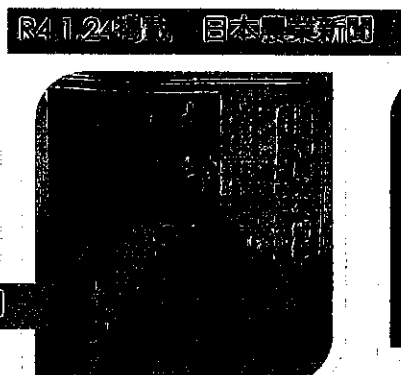
R3.8.29掲載 中国新聞



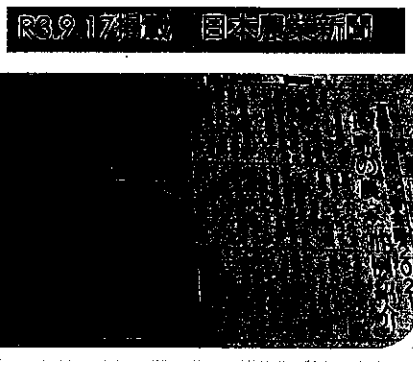
R3.11掲載 山陰新聞



R3.11掲載 中国新聞



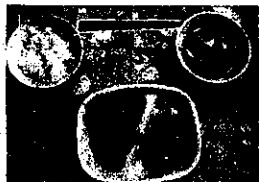
R4.1.24掲載 日本農業新聞



R3.9.17掲載 日本農業新聞

令和3年度の取り組み

採月	実証圃場での収穫物			その他		採月	実証圃場での収穫物			その他	
	品名	重量(kg)	単価(円)	品名	重量(kg)		品名	重量(kg)	単価(円)	品名	重量(kg)
7月	じゃがいも	177kg	270円	きゅうり	36kg	12月	にんじん	355kg	270円	だいこん	165kg
	玉ねぎ	439kg	200円	ズッキーニ	48kg		長ネギ	99kg	400円	白菜	118kg
8月	じゃがいも	62kg	270円	スイートコーン	232本	1月	にんじん	344kg	270円	カブ	19kg
	玉ねぎ	223kg	200円				長ネギ	75kg	400円	サツマイモ	34kg
9月	-	-	-	-	-	2月	にんじん	303kg	270円	里芋	31kg
10月	じゃがいも	48kg	270円	カブ	30kg		長ネギ	99kg	400円	だいこん	193kg
	長ネギ	71kg	400円	里芋	83kg	3月	にんじん	181kg	270円	だいこん	69kg
11月	にんじん	94kg	270円	だいこん	70kg		長ネギ	30kg	400円	大豆	1kg
	長ネギ	108kg	400円	カブ	41kg	じゃがいも	59kg	270円			
	お米	2,520kg	400円								
合計							主要5品目	5,287kg		スイートコーン232本 (62kg)	
							その他	1,154kg		合計	6,503kg
							計	6,441kg			



## 令和3年度の取り組み

### 学校給食調理員の皆さんとの意見交換会

R3.7.21 毎月実施している、栄養士さんと生産者、直売所の方との打ち合わせ会に、調理員の皆さんにも参加いただく。

意見交換のなかで、こういった取り組みを知らなかったと意見アリ。

R3.8.3 調理員の皆さんの希望により、実証圃場の現地見学をしていただく。

R3.8.10 環境保全型農業の推進により取り組んできた内容の説明会実施



## 給食での利用率

品目	R30 生産者使用量	R29 直売所使用量	利用率	前年度実績 使用量	利用率
じゃがいも	2,480kg	612kg	24.67%	↓ 346kg	13.97%
にんじん	3,183kg	224kg	7.03%	↑ 1,277kg	40.11%
長ネギ	1,067kg	507kg	47.51%	↓ 482kg	45.17%
お米	7,664kg	540kg	7.04%	↑ 2,520kg	32.88%
玉ねぎ	4,450kg	0	0%	↑ 662kg	14.88%
計	18,844kg	1,883kg	9.99%	↑ 5,287kg	28.05%
	慣行米3割	有機米7割	有機野菜4割	合計	
中学校	407,196	320,751	137,470	865,417	
中央小	553,455	398,937	253,300	1,205,692	
北小	101,923	87,064	44,990	233,977	
合計	1,062,574	806,752	435,760	2,305,086	地産地消補助の実績

## 今後の取り組み

### 松川町ゆうき給食とどけ隊

指導者講習会を受け、メンバー内で有機栽培を教えられるように考えています。

実証圃場での研修を受けながら、有機栽培を学んでいます。

環境保全型農業を推進し、化学肥料、農薬をなるべく使わない農業として進めてきました。育土を学ぶことにより、「農薬を使わないから安全」という考え方や、「有機栽培だから虫がいる」、「虫に食べられる野菜はおいしい」は、間違っていることに気づきました。

元気な土で育ったお米や野菜が元気になり、虫も病気も寄ってこないことを知りました。「化学肥料、農薬を使わない」ではなく、「使わなくても大丈夫」な農産物になります。

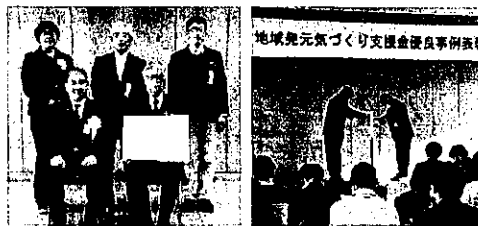
育土には、手間や時間、タイミングを見極めることが大切で、農家の方の経験値が必要になりますが、その経験値をフラットにするための肥料や農薬等が使われています。

この経験値を実証圃場研修会で学ぶことができ、継続して学ぶことにより、生産量や質の良さが現れてきています。マニュアルも、2021年分を追加し再構築する予定です。

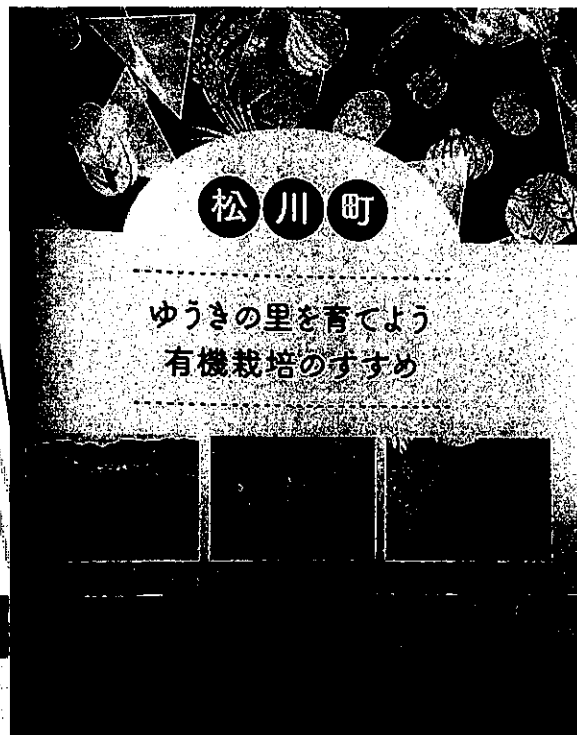
環境にやさしい持続可能な農業を学び、実践し始めたところです。ぜひ、この取り組みを一緒に行っていただける方を募集していきます。

地産地消による経済の循環を構築するためにも多くの方にこの取り組みについて知っていただけたらと考えています。

令和2年度の元気づくり支援金の優良事例として南信州地域振興局長として表彰していただきました。令和3年12月に授賞式に参加しました。



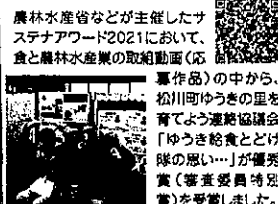
松川町、松川町農業委員会が「元気づくり支援金の優良事例として表彰されました」  
令和3年12月15日（水）に飯田合同庁舎にて開催された、令和2年度長野県地域発元気づくり支援金「優良事例表彰式」で、当町から「健康な食が健康な体を育む。環境保全型農業の推進」事業が、南信州地域振興局長として表彰されました。



### サステナブル

サステナアワード2021  
伝えたい日本の  
「サステナブル」  
受賞作品

2021年11月14日



チャンネルYOU制作の動画、～ゆうき給食とどけ隊の想い～がサステナアワード2021で優秀賞（審査員特別賞）を受賞しました。令和4年2月にオンラインで授賞式に参加しました。

栽培マニュアルを作成しています。2021の取り組みを構築中です。多くの方に参加いただけるよう、継続的な活動を続けていきたいと思っております。





**松川町エナジーグループ**  
 松川町役場 産業課 農務課 係長 宮島公彦さん

**松川町エナジーグループ**  
 松川町役場 産業課 農務課 係長 宮島公彦さん

**松川町エナジーグループ**  
 松川町役場 産業課 農務課 係長 宮島公彦さん

**松川町エナジーグループ**  
 松川町役場 産業課 農務課 係長 宮島公彦さん

**未来予想図 Energy roop**

**遊休農地とは？**  
 現在また将来的にも使用されない耕作地のこと。平成30年の時点でその面積は全国で9万8千haにおよぶ。原因は、少子高齢化が進み、農業人口の減少に比例していることが大きくあげられる。



**三原色のEnergy roop**  
 エナジーグループ

**本比田さんが考える遊休農地についての改善案**

## 令和4年度有機農業産地づくり支援事業について（申請内容）

R3.3.23

### 1. 事業の目的

松川町の遊休農地は224.8ha（R2調査）。遊休農地を増加させないよう、新規就農者の受け入れや、シルバー人材、猫の手くらぶ、ワーキングホリデー等での人材確保や、営農支援センターでの農地の斡旋・マッチングによる農地の流動化や、実質化された人農地プランの策定により、加速度的に増えてしまうであろう遊休農地を抑制している。しかし、担い手の高齢化や、後継者不足、農地の賃貸借の解約などにより、安定した農地の保全、継続には至っていない。

地域が必要とする農地を守っていくためには住民一人一人のかかわりが大切で、農ある暮らしでの、健康な生活を目指すことで、将来的に遊休農地の解消、地域の農業を継続させる原動力としたい。令和2年に「ゆうきの里を育てよう連絡協議会」、「ゆうき給食とどけ隊」が発足し、町内小中学校や医療機関の給食食材として有機農産物の供給を行っている。

今後、遊休農地の解消に向け、これらの取組をさらに加速する必要があるが、取り組みを行う生産者不足等が課題となっている。

そこで、有機栽培に取り組むための栽培研修会、指導者研修会を開催し、土壌診断などで、目に見える有機農業を取り入れ、有機栽培に取り組む際の弊害を取り除き、町内の慣行栽培農家の方に遊休農地を利用した有機農業に取り組んでいただけるよう学びの場を広く開催し、仲間や栽培面積の増を目指す。生産物の販売については、地域内経済循環を重視するとともに、首都圏や中京圏での販売も視野に入れ、販売網の構築を目指し、有機農業の推進を加速する。

### 2. 事業内容・予算 総額 10,013,850円（内国庫補助：10,000,000円）

検討会の開催 予算 3,188,850円

- (1) 有機農業実施5ヵ年計画策定及び農地継承法人の立上げ検討会 全5回  
・有機栽培、地域内循環、認証制度、ブランド化、環境保全型農業の推進
- (2) 視察研修会 ・先進的生産者及び行政（九州地方）15名（公募8名）  
・有機農産物出荷先
- (3) 専門家によるアドバイス 吉田太郎氏（現在、県の有機農業推進担当者）

生産関連の取組 予算 2,609,000円

- (1) 技術の共有 研修会の開催、マニュアル作成、指導者研修会の実施 全12回
- (2) 土壌微生物に着目した土壌診断、土づくり相談 圃場10か所、たい肥5検体
- (3) 果樹における有機栽培の検証（ブルーベリー、ヘーゼルナッツ、りんご各1か所）

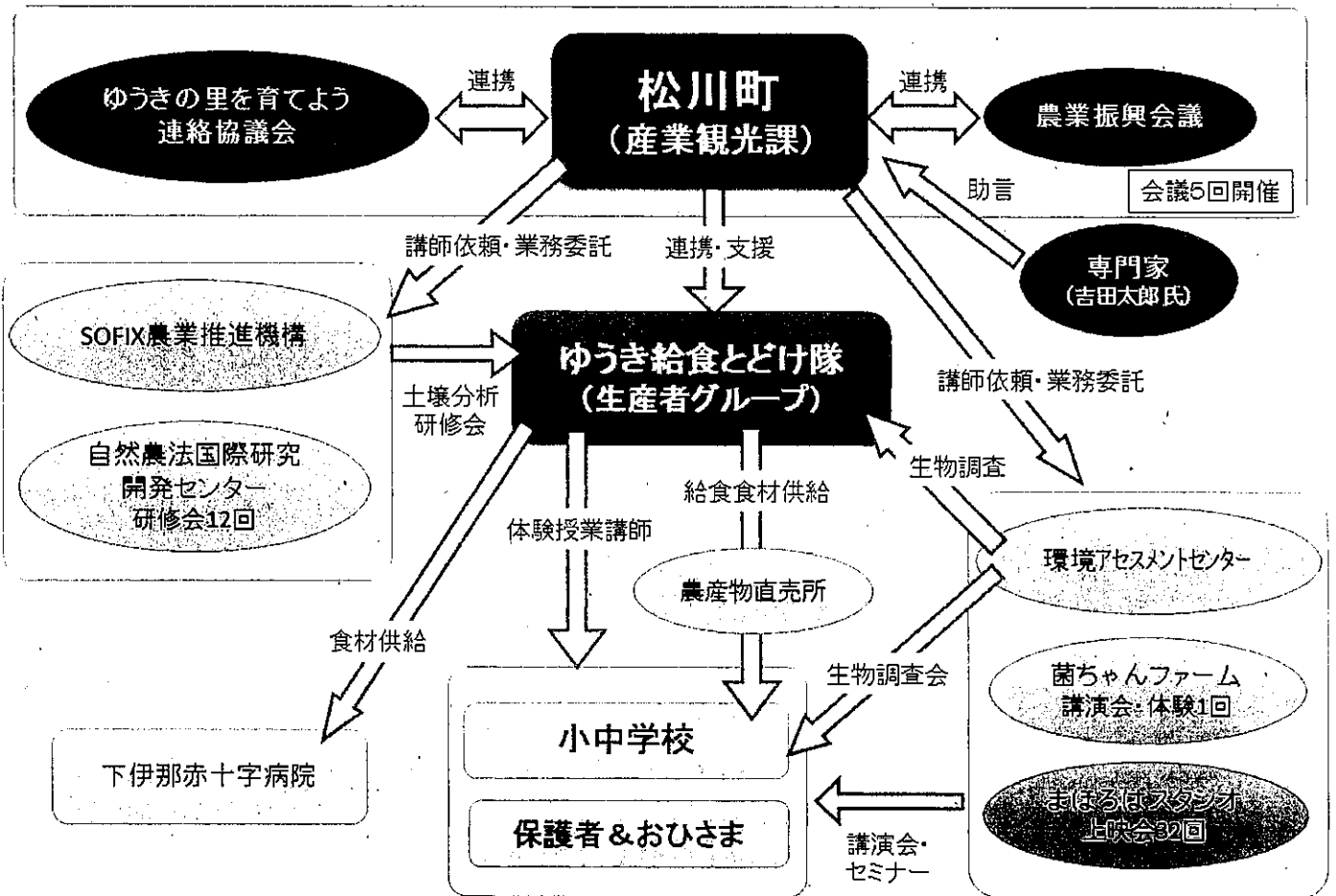
流通、加工関連の取組 予算 100,000 円

- (1) スーパー等への出展の取組 (商談会)

消費関連の取組 予算 4,116,000 円

- (1) 食育の取組
  - ・学校での映画「いただきます2」の上映会&ワークショップ
  - ・栽培体験会&圃場見学会 ・保護者アンケート実施
  - ・食育の日、オールオーガニック給食の提供
- (2) 安定した販売、多様な売り場の確保 ・学校給食のほかに多様な売り場の確保
- (3) オーガニックマルシェへの出展 ・町内、豊島区、名古屋でのマルシェに出店
- (4) 環境調査、学習会の実施 ・生き物調査 (田んぼにて、小学生の調査会 1回実施)
- (5) 各種講演会の開催 ・菌ちゃんこと吉田俊道さん講演会 (6月)
- (6) 啓発活動 ・ポスター、チラシの作成

#### 4. 実施体制







# 松川町の農業従事者・農地面積、遊休農地の推移

R3.12現在

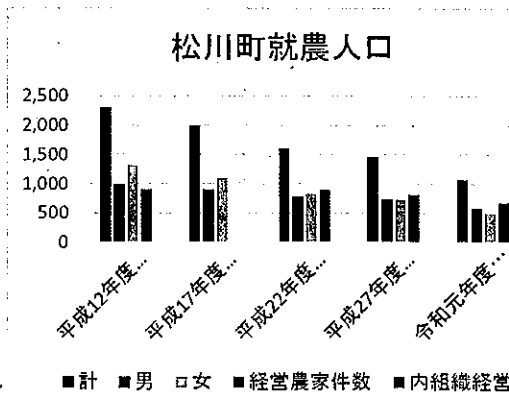
## ①農業就業人口

単位:人

松川町の面積72.79Km<sup>2</sup> =7,279ha

年度	認定農業者数
03年度	116

年度(センサス)	計	男	女	経営農家件数	内組織経営
平成12年度(2000)	2,300	984	1,316	899	6
平成17年度(2005)	1,995	897	1,098	-	-
平成22年度(2010)	1,605	785	820	892	6
平成27年度(2015)	1,459	732	727	810	9
令和元年度(2020)	1,066	578	488	668	9



## ②農業産出額の推移

単位:億円

年度	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
販売額	31.4	32.2	31.9	33.8	34	41.2

農林業センサス結果等を活用した農業産出額推計

## ③経営農地面積の推移

単位:ha 農林業センサスより

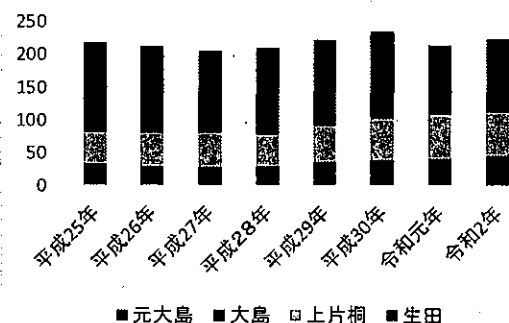
年度	平成22年	平成27年	令和元年
面積	792	748	625

## ④松川町全体の農地台帳整備 農地面積及び農振農用地

年度	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	単位:ha
農地面積	概要調査 1,240ha	1479	1384	1327	1325	利用状況調査後(11月) 2020.8.13許可最終
農振農用地	975	944	943	942	942	

総合見直しにより減

## 松川町遊休農地面積の推移



## ⑤遊休農地面積の推移

農業委員による農地の利用状況調査によるデータ(11月) 単位:ha

年度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全面積	232.6	218.3	213	205.5	210	222.7	235.4	214.5	224.8
元大島	23.2	20.5	16.3	17.1	18.4	24.4	24.7	24.4	26.2
大島	15.6	12.5	13.1	11.8	11.1	12.2	14.2	16.9	19.6
上片桐	61.5	48	50.7	51	47.6	54.7	62.9	67.7	67
生田	132.3	137.2	132.9	125.6	132.9	131.4	133.6	105.5	112

## ⑥遊休農地面積の推移(区分別)

農業委員による農地の利用状況調査によるデータ 単位:ha

年度	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全面積	232.6	218.3	213	205.5	210	222.7	235.4	214.5	224.8
緑(除草管理されている)	86.1	74	72	74.2	77.5	89.9	98	84.3	95.3
黄(荒廃が予想される)	40.1	27.1	26.4	22.6	21.2	20.9	19.5	22.4	26
赤(荒廃が進んでいる)	106.4	117.2	114.6	108.7	111.3	111.9	117.9 (内22.3非農地・ 11.7森林雑入)	107.8	103.5

## 松川町 農地転用面積(農地法4条・5条許可)

単位 m<sup>2</sup>

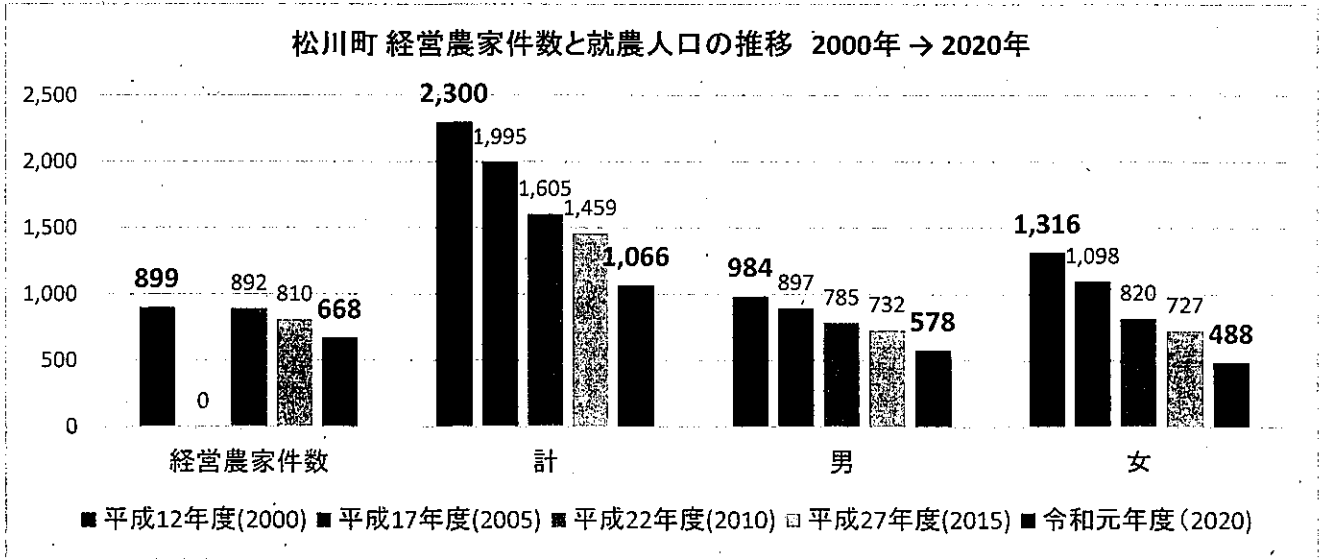
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
転用面積	54,999	45,204	62,383	62,738	65,748	53,918	19,441	36,023	32,542
内太陽光	30,195	15,647	39,357	44,784	31,207	32,287	4,843	362	4,235
内遊休農地	7,060	3,439	6,119	-	-	-	-	-	-

# 松川町 農地の引渡しができる法人の立ち上げについて (素案)

R4.3.23  
産業観光課

## 1. 農業の現状と課題

- ・ 経営農家と経営者の減少 (農林業センサス結果より 5年ごと実施)



農業の継続に危険信号が点灯し、待ったなしの状況になってきていると言えます。

松川町は若武者の活動を見る限り、ほかの市町村と比べても後継者がいて、継承している場合が比較的多いと思われそうですがこのような状態です。

### ・ 担い手の育成・支援

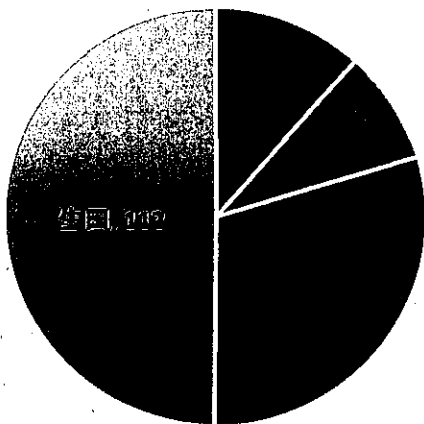
2011年～新規就農者の受入れ 果樹栽培の担い手育成・支援 (国: 青年就農給付金などの制度による)

2019年～果樹研修生の受入れ 担い手の育成 (地域おこし協力隊の制度による)

### ・ 松川町の遊休農地の面積 (農業委員による農地の利用状況調査より R2.11月実施結果)

#### 松川町の遊休農地(地区別)

遊休農地 総面積 224.8ha



地区, 面積 (ha)

遊休農地の面積は 224ha あり、新たな担い手が農地を借りることは難しくありません。しかし、点在していたり、条件が悪くなかったりする農地もあり、経営を安定させることが難しい状況にあります。

実際に経営が安定せず、住まいも確定しないことから、町を離れる就農者も少なからずいます。

条件の良い農地でもすぐに継承することができず、荒廃化していくことも多くあります。

離農される方から就農する人に、農地を繋ぐことができる、また農地の集約化と家の確保を合わせて考え、新規就農者に条件の良い土地をあっせんするためにも、農地を一時管理し、積極的に動ける法人が必要と考えます。

## 2. 法人の事業の概要、目的

- ・優良農地を次世代の就農者に繋いでいくための栽培管理
  - ・残すべき農地を次世代の就農者に繋いでいくための農地維持管理
  - ・新しい品目や新しい栽培方法などを広めるための試験的活動
  - ・農作業受託
  - ・新規就農者の研修受け入れ・農業体験希望者の受け入れ
  - ・各種補助事業の申請支援
- ・・・その他

## 3. 対象農地の選定

- ・令和3年度、農地の売渡等を検討しているとの相談件数が増加。  
守るべき農地とそうでない農地の線引きを行う。(基準の作成)
- ・遊休農地を224.8haのうち、上片桐の農地67ha。上片桐を中心的に考えたい。
- ・大島地区では規模拡大を望む農家も見受けられる。
- ・生田の山間地は山林になる場合が多い。
- ・名子や新井地区は転用が進められる可能性が高い。

## 4. 必要な農機具

- ・果樹園を管理するための機械 (SS・草刈り機等)
- ・小規模な土地改良を行うため (ミニバック)
- ・土壌改良・土づくりのための (トラクター・ハンマーモア)
- ・空き農地での大豆づくり (コンバイン)

## 5. 法人の形態

- ・株式会社、合同会社、農事組合法人 (農業者3名) さまざまな形態があります。  
NPO法人では農地を取得することができません。
- ※農地所有適格法人 (農地を所有するためこの資格が必要)

## 6. 体制や人員計画

- ・役場産業観光課農業振興係の職員との連携
- ・JA 営農課との連携
- ・管理者1名 (指導できる管理者でもある)
- ・指導できる農地管理者1名
- ・事務員1名
- ・農業コンサルタント

## 7. 財務計画

- ・松川町からの業務委託費
- ・JAからの業務委託費
- ・各種補助金制度の利用
- ・農地管理後、農地の売買、賃貸借の際の賃借料 (管理手数料)
- ・農作業受託費
- ・農作業の労働力支援
- ・各種補助事業の申請支援手数料

## 8. 開始時期

令和5年3月を予定し、検討会を進めていきたいと考えます。



## 9. 検討会

- ※ 令和3年12月、農業振興会議（農業委員会、生産者代表、女性農業者代表、JA、県）にて素案を提示しています。
- ※ 令和4年1月、認定農業者、農業委員会、議会での懇談会にて、意見をいただくよう素案を提示しています。懇談会は中止となり、アンケート形式で案内したところ、11名の方に意見を寄せていただきました。

### ○盛り込んでほしい内容・農地の選定について

- ・商業では、コンサルタントがいるが農業に特化したコンサルタントを置くことを希望する
- ・退職して百姓を始める人への支援ができないか。
- ・農地の集約化は以前よりやりやすいと感じるので集約化が進められれば良い。
- ・JA 営農課、JA を退職された方など、管理・指導できる人材が必要ではないか。
- ・農地の賃借、売買を仲介できる組織
- ・農地の草刈りなど作業請負
- ・対象農地を限定せず実施してほしい
- ・点在する園地を管理することは効率が悪く、園地継承の仕組みができればよい。
- ・改植してジョイント園地や高密度植等の生産性の高い園地に整備し、新たな担い手へつなぐ
- ・農地の管理だけでなく、集約も含めた活動内容
- ・山間部や不利な農地などを避けるべき、また最低面積を定めるなど。
- ・農地を必要な人への橋渡しのものが良い。
- ・次世代に繋いでいくという観点で小中学生の勉強のための農地提供があっても良い。
- ・転用を避けるということも考えてほしい。
- ・SDGs と「みどりの食料戦略システム」を視野に環境保全型に特化した法人
- ・上片桐を選定とした場合、品目の転換も含めて栽培継続を考えているか。
- ・農作業受託費だけでは採算が取れないのでは。

### ○人員体制

- ・クイックで働ける5名前後の組織。
- ・栽培指導ができる人が必要
- ・地区の農業委員やJA 営農部とつなげる会社
- ・広域で対応となると難しくなる。樹園地の継承が一番大きな課題。それに特化したものを。
- ・研修生の実証農場として位置づけ、社長等役員はJAOB等。
- ・3人くらいが中心で、あとは作業員として働ける方。
- ・販売管理する人材が1~2名。あとは生産管理者で。

### ○法人の形態について

- ・橋渡しのものであれば、NPO 法人でよいのでは。人数も妥当。
- ・収入はどれくらいあるのか。
- ・栽培管理する法人は難しいと思う。
- ・株式会社の形態が動きやすいと思われる。核となる人物の選定が重要
- ・果樹経営をリタイヤした方等を応援団として最低限の時給で作業を依頼。
- ・利益追求の株式会社、農地を守るなら別の方法も。

- ・公的な組織に見えると、取捨選択が難しい。営利団体としたほうが良いのでは。
- ・事業規模の縮小を命題とする法人になると思います。
- ・農事組合法人。それぞれの農家での収穫物をブランド化、加工して販売
- ・果樹は人員が必要。米なら農機具があればなんとかなる。
- ・JAのNPO法人でも農地の維持管理は可能と考えるが、現状、規模拡大している法人に人材支援や資金援助ができれば早いのでは。

#### ○必要な農機具等

- ・保冷库、SSなどを運ぶトラック
- ・高所作業車、軽トラック、チェーンソー、ピーバー等

#### ○その他

- ・土手草刈り
- ・小規模兼業農家の動向に留意を
- ・農地に覆いかぶさる隣の土地からの支障木等の伐採
- ・ゆうき食材の給食提供の事業の拡大。法人での受注管理。
- ・法人の設立にあたって、勉強できる場やアドバイスが受けられる体制づくりを
- ・鳥獣害対策も含めて何らかの対策が必要

#### ☆ 検討会開催スケジュール

令和4年度は会議を5回予定しています。

参加人員 1.3.5回は農業振興会議及びゆうきの里を育てよう連絡協議会の合同会議とし、(町、農業委員会、議会議員、生産者代表、女性農業者代表、JA、県、栄養士、学校関係、商工会等)が一緒になって、農地を継承するために何が必要か、将来に向けて描く農地の在り方や、方向性などを探ります。

合同会議、それぞれの会議で検討された内容について、法人立ち上げの検討会議を設置し、協議を行う予定です。(小規模数名を予定)

- |     |       |  |
|-----|-------|--|
| 第1回 | 5月予定  | 他県・他町村の取り組み事例<br>法人が担う事業についての検討・事業計画(案)検討<br>・農地の選定基準、管理方法、パターンづくり<br>・みらい(営農支援)で実施する事業からの継承内容検討 |
| 第2回 | 7月予定  | 振興会議・連絡協議会それぞれで検討  |
| 第3回 | 9月予定  | 人事についての検討(中心的人物の選定)<br>法人の形態について検討   |
| 第4回 | 12月予定 | 振興会議・連絡協議会それぞれで検討  |
| 第5回 | 2月予定  | 定款・予算案の作成<br>法人の立上げについて最終確認  |

※ 令和5年3月、法人設立。各種補助金の申請・事業開始

ゆうきの里を育てよう連絡協議会・松川町農業振興会議 合同会議名簿

所属組織等	職名	氏名	備考	
松川町	松川町長	宮下智博	会長（ゆうき）	
松川町議会議員	総務産業建設委員			
	社会文教委員			
松川町農業委員会	会長	松下 敏章	会長（振興会議） 副会長（ゆうき）	
	会長代理	北林 秀昭		
JAみなみ信州農業協同組合	理事	木下 稔		
	支所長	古瀬 聖史		
生産者代表	生産組織の代表	松川ファーマーズクラブ会長	水野耕一郎	
	若手農業者の代表	若武者会長	生澤 淳始	
	松川町認定農業者連絡会	会長	関 悟司	
	長野県農業経営士協会	理事	宮澤 喜好	
	長野県法人協会	理事	中平 義則	
	長野県農業士協会	理事	大島 崇	
	くだもの観光協会	会長	奥村 孝吉	
	女性農業者の代表	農村女性ネットワーク会長	北沢 ひろみ	副会長（振興会議）
		JA女性部長	下村 幸江	
		長野県農村生活マイスター	宮澤 千文	
ゆうき給食とどけ隊	会長	久保田純治郎		
ゆうき給食とどけ隊	副会長	牛久保二三男		
直売所代表	もなりん店長	松沢健史		
教育委員会	教育長	小平順一		
小中学校・保育園栄養士	学校栄養士 中央小	木下めぐ美		
	学校栄養士 中学校	片桐美咲		
	学校栄養士 北小	本多有里子		
	保育園 こども課（保育園）	遠野美幸		
保健福祉課栄養士	町栄養士	浜岡翔子		
	町栄養士	今井奈穂美		
松川町商工会代表	会長	小沢文人		

所属組織等	職名	氏名	備考
事務局	南信州農業農村支援センター係長	木下 倫信	
	J A松川支所営農課 課長	坂巻 勲	
	町建設水道課 課長	原 高広	
	町建設水道課 主査	後藤 正雄	
	町産業観光課 課長	田中 学	
	町産業観光課農林係 係長	米山 敏	
	町産業観光課農林係 主事	宮澤 風香	
	町産業観光課農業振興係 係長	宮島 公香	
	町産業観光課農業振興係 主任	小沢 香織	
	町産業観光課農業振興係 主任	松尾 凌	
	農地利用調整推進員	佐藤 光吉	
	農地・経営相談員	下平 隆司	
	就農相談員	佐藤 広利	
	J A松川支所営農課 営農支援センター	橋場 幸子	